

Q&A

中年男性に発生した膵尾部腫瘍

【問 題】

症例は40歳代男性。前医にて急性虫垂炎で手術加療を受けた際の画像検査にて、偶発的に膵腫瘍を指摘された。精査目的で当院紹介となる。

現症：体温 36.7℃， 血圧 138/92mmHg， 脈拍 72/min。眼瞼結膜に貧血なし， 眼球結膜に黄染なし。腹部は平坦， 軟で圧痛なし， 腸蠕動音正常。表在リンパ節を触知せず。

既往歴：虫垂炎手術のみ。

血液検査所見：赤血球 508 万個/ μ l， Hb 16.0g/dl， 白血球 6700 個/ μ l， 血小板 19.5 万個/ μ l， Alb 4.5g/dl， AST 30U/l， ALT 23U/l， ALP 149U/l， γ -GTP 50U/l， アミラーゼ 57U/l， BUN 30mg/dl， クレアチニン 1.29mg/dl， CEA 2.1ng/ml， CA19-9 16U/ml， DUPAN-2 <25U/ml。

腹部 CT 検査 (Figure 1, 2)， 超音波内視鏡検査 (Figure 3) の結果を示す。

疾患は何か？

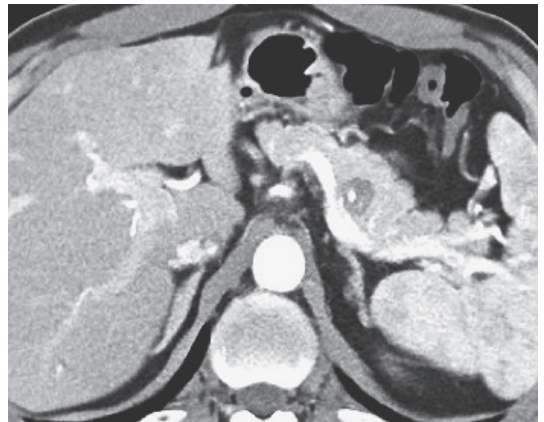


Figure 1. 腹部造影 CT：膵尾部に径 15mm の腫瘍性病変をみとめる。尾側膵管の拡張はみとめられなかった。

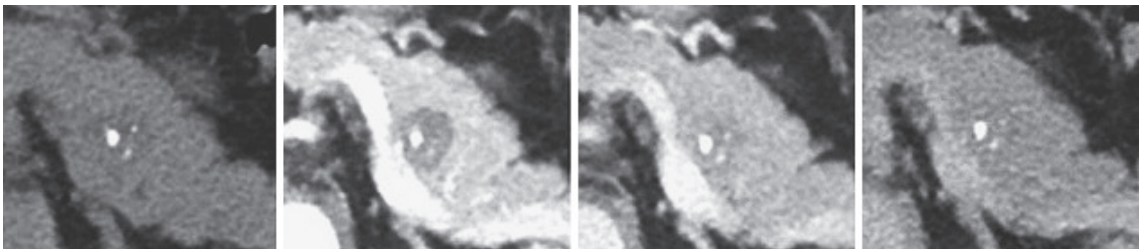


Figure 2. 腹部 CT (dynamic study)：単純 CT で内部に石灰化がみとめられる。膵実質相では周囲より低濃度の腫瘍性病変として観察され， 門脈相から平衡相にかけて周囲膵実質と同程度に染影される。

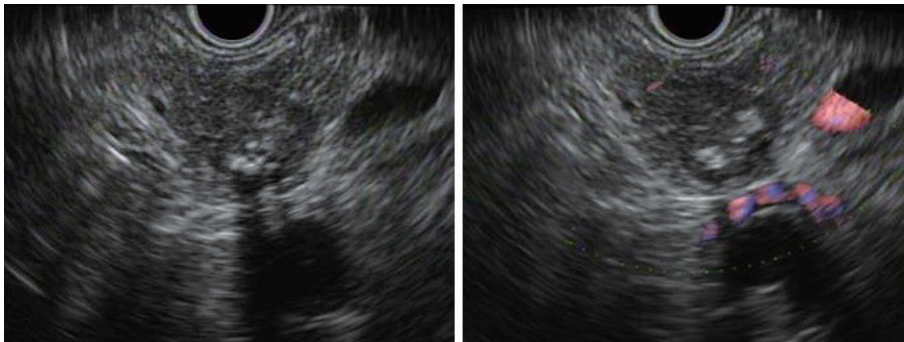


Figure 3. 超音波内視鏡検査：病変は比較的境界明瞭な低エコー腫瘍として観察されるが、内部エコーは高・低エコーが混在してモザイク状である。被膜様構造は指摘できない。